課題別研究成果報告書

**全国小・中学校弱視特殊学級及び
弱視通級指導教室実態調査**

(平成16年度)

平成17年3月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所

まえがき

本報告書は、平成 15 年度～ 17 年度における課題別研究「盲学校および弱視学級等における情報システムおよび地域ネットワークを活用した視覚障害教育医にかかわる情報収集・提供の在り方に関する研究」（以下、「課題別研究」という）の一環として実施した「平成 16 年度全国小・中学校弱視特殊学級及び弱視通級指導教室実態調査」についてまとめたものです。

本研究所では、昭和 47 年度より 5 年毎に、全国の小・中学校弱視特殊学級及び弱視通級指導教室（以下、弱視学級等という）の実態調査を継続的に実施してまいりました。これらの資料は、弱視教育に関する研究資料としてだけではなく、各学校における弱視教育の学習指導や学校間協力のための資料としても有効に活用されてきたところです。

本調査は、平成 16 年 5 月 1 日現在における全国小・中学校弱視特殊学級及び弱視通級指導教室の実態について調査したのですが、今回の調査におきましては、従来から実施してきた弱視学級等に在籍する児童生徒に関する調査（調査Ⅰ）に加え、弱視学級等設置校のインターネットの整備状況及び弱視学級等担当者が必要と考える教育用コンテンツについての調査（調査Ⅱ）を併せて実施しました。

調査Ⅱを実施するに至ったのは、上述した課題研究におきましては、「視覚障害児童生徒の教育に係わる情報収集と共有についての体制づくりに関する研究」をテーマの一つに掲げており、「特別支援教育」への転換へ向けて、今後は当研究所が運営する「視覚障害教育情報ネットワーク」を媒介として、全国の盲学校や弱視学級等が連携し、視覚障害教育の内容・方法に関する教育用コンテンツ等の情報を共有することが必要であると考えたからです。

つまり、インターネットを介して教育情報等の共有を図る必要があることから、まず、現時点における弱視学級等設置校のインターネットの整備状況を把握することとしました。

本調査の結果、全国の弱視学級等の現状及びインターネットの整備状況、さらには、教育実践上必要となる教育用コンテンツ等が明らかとなりました。今後は、これらの調査結果を踏まえ、上述したように全国の盲学校や弱視学級等が互いに連携を図り、インターネットを介して教育情報等の共有化が図られるよう、さらに実践的研究を深めてまいりたいと考えております。

最後に、今回の調査におきましては、多岐にわたる調査項目にもかかわらず、ほぼ全ての弱視学級等から調査回答を得ることができました。当調査にご協力をいただいた各都道府県教育委員会ならびに弱視学級と通級指導教室設置校の諸先生方にあらためて深く感謝を申し上げます。

平成 17 年 3 月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所
研究代表者
大 内 進

目 次

はじめに

I	研究の目的	1
II	調査の方法	2
	1. 第1次調査	2
	2. 第2次調査	2
III	調査の結果と考察	2
	1. 弱視学級等の設置状況	2
	2. 弱視学級等在籍児童生徒の実態	4
	3. 弱視学級等設置校のインターネットの整備状況	6
IV	今後に向けて	9
V	文 献	10

資 料 1

○平成16年度全国小・中学校弱視特殊学級及び弱視通級指導教室設置校一覧

資 料 2

- 各都道府県用調査票（第一次調査用）
- 弱視特殊学級用調査票①（第二次調査用）
- 弱視通級指導教室用調査票①（第二次調査用）
- インターネット整備状況等用調査票②（第二次調査用）